

ファンとは誰か？

——ファン定義の再検討——

甲南女子大学 池田太臣

1 目的

ファン研究は、日本においても海外においても、相当の蓄積がある。とはいうものの、「誰をファンというのか」という定義の問題については、必ずしも明確な解答が出されているわけではない。そこで本報告では、ファンの定義を明確にするために、従来の定義の問題点を指摘し、新しい定義を提示したい。

2 先行研究の検討

ファン研究ないしファンに関するルポルタージュを見渡すと、ファンとそうでない人を区別する基準は2つあるように思われる。それは「ファンの社会的相互作用への参加」と「感情的な関与」である。

前者の定義は、ヘンリー・ジェンキンスによるものである (Jenkins 1988)。ジェンキンスによれば、ファンとは「ある特定のテレビ番組の習慣的な視聴者ではなく、視聴から何らかのタイプの文化的活動へうつる」人々であるとされている (Jenkins 1988: 88)。「何らかのタイプの文化的活動」の具体例として、番組の感想や考えを友達と共有したり、コミュニティに参加したりすることが挙げられている (Jenkins 1988: 88)。つまり、ジェンキンスは、個人的リアクションから社会的相互作用へと行動が変化したときに、その人を「ファン」と言っていると考えている。

もう一つの定義は、ファンの「感情的な関与」を重視するものであるといえよう。感情的な関与の度合いで、ファンとそうでない人とを区別するものである。おそらく、この基準は、先の立場よりも、より一般的であると思われる。とくに定義していなくても、ファンとして特定の人物を取り扱う前提として、かなりの程度、感情的な関与を行っている者という条件がある。

しかし、この2つの定義は、それぞれ問題をはらんでる。前者に関しては、ファンのコミュニケーションを取らずとも、あるいはイベントに参加していなくても、ファンとしての行動は成り立つと考えられる。また、後者に関しては、あまりにも熱心に参加する者だけをファンと呼ぶとすると、“ファン活動に有利な条件の人” (“趣味的な強者”と呼びたい)のみをファンとしてとりあつかってしまうことになる。

3 結論

私は本報告でファンとしての“自覚の有無”をファンの定義の中心に置くことを提案したい。この基準であれば、たとえ、状況的にあまりファン活動を行っていない場合であっても、その人を「ファン」として拾うことができる。また、あまりお金と時間とを投資できない“趣味的弱者” (池田による造語) が、ファンとしてのアイデンティティや自負心を守るために、日常的にどのような工夫をしているかについても、光を当てることができる。

文献

池田太臣, 2013, 「共同体、個人そしてプロデュセージ：英語圏におけるファン研究の動向について」, 『甲南女子大学研究紀要』第49号 (人間科学編), 107-119.

Jenkins, Henry, 1988, “Star Trek Return, Reread, Rewritten: Fan Writing as Textual Poaching”, *Critical Studies in Mass Communication*, vol.5, no.2(June): 85-107.